



同窓会会長 吉田和郎（同福大垣・99 信徒奉仕卒）

2017年4月9日（日）愛知県犬山市のレイクサイド入鹿で開催された神学塾の春のリトリートに参加しました。今回もお座敷で皆さんと一緒に豪華な夕食から参加することができました。

初日の講師は、後藤喜良塾長で、「塾の歴史」について語っていただきました。

イザヤ書6:8 私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」

6:9 すると仰せられた。「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』

あのイザヤが語っても、民は理解しないと主は言われた。神学塾を始める以前、私（後藤）が語っても、果たして理解してくれる人は殆どいないのではないだろうかと思ったこともあった。

いつまでですか？とイザヤが聞いたら、「この国が亡びるまで」との答えであった。

6:10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉ざせ。自分の目で見ず、自分の耳で聞かず、自分の心で悟らず、立ち返っていやされることのないように。」

6:11 私が「主よ、いつまでですか」と言うと、主は仰せられた。「町々は荒れ果てて、住む者がなく、家々も人がいなくなり、土地も滅んで荒れ果て、

6:12 主が人を遠くに移し、国の中に捨てられた所がふえるまで。

結局は、残された「切り株」が神の民…。

6:13 そこにはなお、十分の一が残るが、それもまた、焼き払われる。テレビンの木や樫の木が切り倒されるときのように。しかし、その中に切り株がある。聖なるすえこそ、その切り株。」

現実には、イザヤは見るができなかったが、今は、世界に多くのクリスチャンがいる。どんなに、人が聴かなくても、悔い改めなくても…、「行きなさい。」と主は言われる。

イギリスのスポルジョンの救いのことをみれば、多くのことが教えられる。

ある人が、イギリスで熱心に伝道していたが、何年間も、殆ど人が救われなかった。ただ、若い人が一人救われた。しかし、その若い人こそ、今ではとても有名なスポルジョンだった。スポルジョンは後に多くの人を救いに導く大伝道者となった。

東海聖書神学塾の発足は、1984年であるが、その10年前、1974年にリバイバルクルセードがあり、東海地区の教会の宣教協力が語られていた。

そして、それより以前に「名古屋信徒聖書学校」が春と秋、月曜日の夜に開催され、信徒教育の推進がはかられていたが、なんと、今日ここに、塾生として参加している「筑間兄」や「須藤兄」が参加しておられたということである。

神学塾の前身としては、河野、高橋、後藤による「三人会」からはじまり⇒「若手牧師の会」⇒「テモテ会（神学研究をしている牧師会）」⇒1982年「日本福音主義進学会・中部学会」というようないくつかの動きがあった。

1983年の「名古屋における神学校設立についての懇談会」には、黒川、羽鳥、梶、後藤、河野、鈴木？の6名が参加していた。その年の5月のアンケート実施によると、58教会から回収でき、うち37教会が東海地区に神学校設立希望、また42名の献身希望があった。

1984年9月に設立総会開催。1985年4月に第1回入塾式（教職2名、信徒リーダー4名）を実施することができた。

ある時、牧師の奥さんが、うつ病になってしまったので牧師をやめるということを知った。そのため、「牧師夫人講座」を始めた。日本で唯一ではないかと思う。

また、当初は、信徒リーダーコースという名称であったが、なぜか、「リーダーになれる」との思いで、高ぶる？人があるようだったので、「信徒奉仕者コース」に名称変更した経緯がある。私としては、「教会に仕える人」になってほしい。

イエスもお弟子と一緒に生活して弟子を育てられた。パウロもテモテと一緒に生活しながら育てられた。（同労者として育てていく。）この東海地区に神の民がたくさんいると信じ、これからもともに歩んでいきたい。
（文責 吉田）



神学塾同窓会総会
を右記のとおり開催
します。

近況報告と祈り会
を通して交流したい
と考えています。

ぜひ、ご参加くだ
さい。



17年7月の同窓会総会 開催のお知らせ

と き 7月17日(月) 14:00 から
と ころ 東海聖書神学塾 (TEL052-321-7516)
(金山クリスチャンセンター3階)
名古屋市中央区金山 2-1-3
主な議題 事業・会計報告、近況報告と祈り会
締め切り 7月14日(金) までに事務局へ

連絡先 (大鐘朝博)

Tel 090-5622-8489

Mail : dai2colint520@sf.commuja.jp